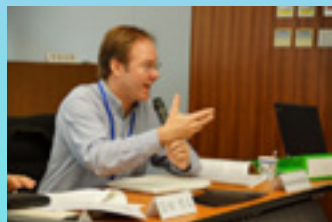




世界の法華經研究者が立正大学仏教学部に結集！
立正大学開校140周年記念 **第7回 国際法華經学会**
—総合テーマ「法華經の普遍性・国際性」—



連日超満員の大盛況！ 立正大学・仏教学部では、10月15日(月)・16日(火)に、第7回国際法華經学会 (The 7th International Conference on the Lotus Sutra) が開催された。海外の法華經研究者、国内の外国人法華經研究者、立正大学・大正大学・身延山大学等の研究者が参集した。連日百数十名の参加があり、会場(学術情報センター・第6会議室)は予想をこえる超満員の大盛況となった。会場の様子は第2会場(礼拝室)にも同時中継され、一般の来聴者や学生も研究発表を視聴した。

人類の叡智—法華經の普遍性・国際性 本学会は、1984年12月にハワイ大学で第1回が開催され、第2回は立正大学、第3回は再びハワイ大学、第4回ライデン大学、第5回マールブルグ大学、第6回はトロント大学で開催され、今回、8年ぶりに第7回の開催に至った。今回は、大会草創期以来の諸先師の功績を顕彰するとともに、立正大学が建学の精神を発揚して益々の発展を期するため、国内外の法華經研究者を招致し、「法華經の普遍性・国際性(Universal and International Nature of the Lotus Sutra)」を総合テーマとして4つのセッション(法華經の思想・法華經と信仰・法華經の文化・現代社会の諸問題と法華經)にわたり、17本の研究発表と活発な議論が展開された。